

## 本学の看護学部における看護師国家試験対策の取り組み —看護師国家試験対策内容の振り返りと学生アンケートの結果からの考察—

藤澤由香<sup>1)</sup>，木地谷祐子<sup>1)</sup>，蘇武彩加<sup>1)</sup>，中野千恵子<sup>1)</sup>，伊東佐由美<sup>1)</sup>

### The University's School of Nursing Approach in Preparing for the National Nursing Examination — Reflecting on the Contents of the National Nursing Examination Preparation and Observations From Student Questionnaire Results —

Yuka Fujisawa<sup>1)</sup>，Yuko Kichiya<sup>1)</sup>，Ayaka Sobu<sup>1)</sup>，Chieko Nakano<sup>1)</sup>，Sayumi Ito<sup>1)</sup>

キーワード：看護師国家試験，国家試験対策

Keyword：National Nursing Examination，National Examination Preparation

#### I. はじめに

##### 1) 教育機関における保健師助産師看護師国家試験対策の背景

近年，少子・高齢化の進展，医療の高度化に伴い，国民の看護への期待が高まっている。今後，地域医療構想の実現や地域包括ケアシステムの推進に伴い，療養の場が多様化し，個人や家族の状況が複雑化するなかで，保健師，助産師及び看護師にはこれまで以上に重要な役割を担うことが求められる。看護師の養成数は引き続き増加傾向にあり，在宅医療やチーム医療等においては各職種の専門性や自律性が一層求められている（厚生労働省，2016）。

保健師国家試験，助産師国家試験及び看護師国家試験（以下，「保健師助産師看護師国家試験」とする）は，保健師助産師看護師法第17条に基づき，保健師，助産師又は看護師として必要な知識及び技能を評価するものであり，保健師，助産師，看護師の仕事に従事するうえでは，これに合格し，免許を受けることが必須であるとされている（保健師助産

師看護師法，1968）。

近年の社会の変化や看護を取り巻く環境の変化に合わせ，試験の内容は定期的に改善を行ってきており（厚生労働省，2016），合格率は新卒・既卒併せて90%前後の状況である（厚生労働省，2021）。よって，養成機関での教育課程を終えた者でも1割の受験者は不合格となる試験である。そのため，確実に合格するためには相応の対策が必要である現状がある。

国内の教育機関における看護師国家試験対策のこれまでの報告では，各養成機関における国家試験対策の実践報告が大半を占め，その多くは看護専門学校における実践報告であった。看護系大学における実践報告は，国家試験対策における学習方法の提案に関する文献（武政他，2015），（武政・野田・吉田・方波・志村，2016）が散見される状況であり，この背景には，看護専門学校と看護系大学の国家試験に対する取り組みの違いがあることが考えられる。

看護専門学校と看護系大学の国家試験対策

に対する取り組みの違いについて述べる。看護専門学校では即戦力となる人材育成を目的としているため、「職業教育」としての実践的な学習に特化したカリキュラムが組まれ、入学してくる学生も看護師の免許取得の目標を明確に持っている学生が多いことが推測される。学校の機能上、国家試験の合格率が学校経営に直結しているため、最終学年の1月以降になると、全教員で合格率100%を目指して国家試験対策に臨んでいる学校は少なくない(三井, 2013)。一方、看護系大学では、学士という学位を取得するため、看護の専門的な学習だけでなく、一般教養科目も併せて習得するカリキュラムが組まれている。卒業研究や卒業前の統合実習(演習)等もあり、学生は国家試験の間際までスケジュールが詰まっている状況がある。また、昨今急増している看護系大学に入学してくる学生の背景は多様化し、多くは看護職を目指すものである一方、自分の本意ではなく入学してくる学生や、看護職を明確に目指すまでには至らない状況で入学する学生もあり、看護学の学習に対するモチベーションも様々である。その上、大学教員は看護の専門科目を教授する立場を取りながら、研究、社会貢献、大学における各委員会活動や臨地実習指導などに従事し、専門学校のように全教員が一丸となって国家試験対策に集中して従事することは難しい状況にある。そもそも、大学教育には、一般教養と高い専門性を有する専門教養を教授する過程で、学生には自ら学び考える能力を付与し、学術探求心を育てるという使命がある。よって、大学で学ぶということは、学生自らが国家試験合格のための学習方法を身に着けることができるということであり(三井, 2013)、大学での国家試験対策の取り組みも学生が主体的に国家試験対策に取り組み、確実に合格につなげられるようなサポートが求められると考える。

## 2) 本学の保健師助産師看護師国家試験対策の変遷

本学看護学部は、1998(平成10)年に開学以来、多くの看護職を輩出している。開学当初の国家試験対策においては、概ね学生の主体性を尊重し、学生が自主的に国家試験の模擬試験を有志で受験する程度の対策で対応していた。その後、大学の学生課の職員や学部

の学生委員会の担当教員のサポート、外部業者への委託によるサポート等を得ながら学生が主体で国家試験の対策を行っていた時期もあった。しかしながら、国家試験の合格率が伸び悩み、不合格者を複数出すようになったことをきっかけに、学部生の学生生活、就職に関する事項を管轄する学生・就職委員会(当時)の国家試験対策担当教員が中心となって学生の国家試験対策サポートを行うようになった経緯がある。本学の保健師助産師看護師国家試験の合格率は、過去20年で100%を達成したことは2度しかない。そのため、国家試験合格率100%を目指して、現在までに、学生からの国家試験対策に対するアンケートの結果や合格率等を元に、国家試験対策内容の評価・修正を重ね、担当教員がサポートしながら、できるだけ学生が主体的に国家試験対策に取り組めるよう、試行錯誤しながら対策内容を検討してきた。

近年、岩手県内にも看護系大学が増加し、年々深刻化する少子化の影響もあり、順調な受験者数の確保、ならびに質の高い入学者の確保のためにも、国家試験の合格率が重要になってくると考える。

そこで、本学部の保健師助産師看護師国家試験対策のうち、本学部の学生全員が受験する看護師国家試験対策の取り組みの実際を振り返り、近年の合格率、学生アンケートの結果から、その成果と課題を考察したので報告する。2020年度より、Covid-19感染拡大により、国家試験対策を一部変更して行っているため、本報告では、2019年度までの対策内容をもとに報告する。本報告により、今後の本学部における、学生の主体性を尊重した、合格率向上につながる国家試験対策運営のための貴重な示唆が得られると考える。

## II. 目的

本学部の看護師国家試験対策の取り組み内容と近年の合格率、学生アンケートの結果から、その成果と課題を考察する。

## III. 本学部の看護師国家試験対策内容の実際

### 1. 本学部の看護師国家試験対策スケジュール

本学部の看護師国家試験対策については、学部の学生委員会が管轄している。学生委員会は、看護学部の学生の大学生活支援、就職支援、国

家試験対策支援を担っている委員会である。学生委員会の国家試験対策担当教員が中心となり、国家試験対策スケジュール（表1）を立案している。国家試験対策スケジュールの立案は、年間の大学スケジュールや授業時間割・実習スケジュールをもとに、できるだけ多くの学生が参加できるスケジュールになるよう配慮している。特に保健師、助産師養成課程、養護教諭養成課程を有する本学部では、保健師および、助産師国家試験受験資格、教育職員免許状取得のための保健学科目、助産学科目、教職科目のカリキュラムがあることで、学部の時間割が複雑であり、対象学生全員が参加できる国家試験対策スケジュールを立案することが困難な状況にある。学部の教員に国家試験対策スケジュールを周知できるよう、時間割の裏にスケジュール表を印刷し、看護師以外の課程を履修している学生には、模擬試験の自宅受験等の対応も行いながら、できるだけ対象となるすべての学生が参加可能なスケジュール立案に努めている。

国家試験対策の概要については以下の通りである。

国家試験ガイダンスについては3年次後期後半から始まる第1回ガイダンスを皮切りに、4年次に各時期に対応した内容のガイダンスを4月と12月に2回、計3回実施している。また、国家試験模擬試験は、4年次の1年間で4回実施している。その他、夏季と冬季に看護師国家試験対策支援業者の講師による学内での集中講義を企画し、希望する学生が学内で受講できるようにしている（有料）。また、国家試験終了後に、国家試験自己採点を、インターネットを介して行い、学生の国家試験の得点の把握を行っている。1～3年次生については、2年次生より、低学年用の専門基礎模擬試験を受験できるようにしている。

## 2. 国家試験対策内容

### 1) 国家試験対策費用の助成

本学では、学部の後援会費より、4年次に開催する看護師国家試験模擬試験全4回のうち、3回分の受験料と国家試験対策講座の受講料の一部を看護学部生全員に助成している。

### 2) 国家試験対策委員会と対応マニュアル（学生用・教員用）

学部の国家試験対策については、学生の国家試験対策委員と国家試験対策担当教員で構

成される、国家試験対策委員会で企画・運営している。国家試験対策スケジュールは、国家試験対策担当教員が立案しているが、教員が企画した計画以外で、追加の模擬試験の企画を学生から提案し、企画することもある。

また、学生と教員が役割分担をして対策を運営しており（表2）、模擬試験や対策講座の運営、国家試験当日の学部生への対応は、国家試験対策委員の学生が中心に行っている。学生の委員にはリーダー、副リーダーを置き、リーダー、副リーダーを中心に教員と委員会メンバー間の連携を効率的にはかっている。

学生と教員の業務分担の共通理解と進捗の共有を図ることを目的に、対応マニュアル（図1、2）を学生版・教員版の2種類作成し、運用している。対応マニュアルの内容は、学生、教員それぞれの国家試験対策業務の対応スケジュールとスケジュールごとの具体的な

表1 看護師 国家試験対策スケジュール

月	内容
2月	看護師国試ガイダンス（対象3年生）
4月	看護師国試模擬講義つき有料ガイダンス
	専門基礎模試
7月	看護師国試模試第1回
8月	看護師国試夏期講座（全4回）
	看護必修問題模試
11月	看護師国試模試第2回
12月	国家試験直前ガイダンス
	看護師国試冬期講座（全3回）
1月	看護師国試模試第3回
	看護師国試模試第3回 解説講座（全2回）
	看護師国試必勝対策講座（該当者限定）
	看護師国試模試第4回
2月	看護師国試自己採点 （Web入力）



業務内容が記されており、煩雑な業務内容に対して、本マニュアルをもとに国家試験対策業務が確実に進められるようになっている。

### 3) クラス担任との学生の模擬試験得点状況の共有

本学部はクラス担任制をとっている。クラス担任は、クラスの学生の出席状況の把握、履修指導、進路相談、必要時の保護者との連絡など、一人ひとりの教学支援や、学生生活全般に関わる相談に対応する役割を担っている。1クラスあたり1年生から4年生まで、約30名あまりの学生を、2～3名の講師以上の教員で担当している。各模擬試験終了後に模擬試験業者から返送される学生の成績一覧を、その都度クラス担任の教員にも配布し、各学生の模擬試験得点状況や各領域の得点状況等を確認できるようにしている。

### 4) ハイリスク要因を持つ学生への支援

これまでの国家試験対策において、国家試験合格にハイリスクな学生は、以下の要因を持っていることが推察された。1つ目は、国家試験模擬試験成績が不振であること(概ね、模擬試験の偏差値40以下)、2つ目は、単位を取得できていない科目を4年生後期まで抱えているなど、科目履修状況が順調ではないこと、3つ目は、成績(GPA: Grade Point Average)が不良であること、最後に、順調に進級ができていないこと、である。

国家試験模擬試験成績が不振な学生に対しては個別に支援を行っている。具体的には、各模擬試験の成績が出た際に、該当する学生をピックアップし、その学生のクラス担任と成績を共有している。また、夏休み前や冬休み前など、長期休業に入る前に、国家試験対策担当教員が、該当学生との個別の面談を実施し、学習状況の確認やアドバイス等を行っている。さらに、4年生の11月に実施する模擬試験で偏差値50以下(C, D判定)の学生については、冬休み明け(1月～)に国家試験必勝対策講座と称して、過去の模擬試験を活用した学習会や国試対策のための学習場所の確保等の支援を行っている。

その他のハイリスク要因を持つ学生については、まず、国家試験対策担当教員間で情報共有し、ハイリスク要因を複数併せ持ち、かつ、国家試験模擬試験の成績が不振な学生については、国家試験の直前まで、学生の模擬

試験の成績を確認し、その都度必要に応じて、クラス担任の教員と連携しながら、個別に対応を継続している。学生の中には、精神的な不調を訴える学生もあり、模擬試験成績だけに目を向けるのではなく、その学生個々の状況に必要な支援を模索し、対応するようにしている。

### 5) 保護者との情報共有

保護者に対しては、10月の大学祭の時期に開催される「保護者のための就職セミナー」という保護者向け就職ガイダンスにおいて、本学部の国家試験対策内容について周知する機会を設定している。また、模擬試験成績不振者については、冬休み前の時期に、該当する学生の保護者宛てに、学生の状況の共有と国家試験合格への協力を依頼する内容の文書を送付している。

## IV. 近年の本学部の看護師国家試験合格状況(表3)

過去5年間(2015年度～2019年度)の本学部の看護師国家試験合格状況について、表3に示す。5年間で100%の学生が合格した年は2015年、2017年度のみで、その他の年は、1人～3人の不合格者が出ていた。しかし、2017年度は、看護師以外の資格で不合格者を出していたため、過去5年間で3職種(保健師助産師看護師)すべての試験で100%の合格者を出した年は2015年のみであった。さらに、各年度の不合格者は、すべての学生がハイリスク要因を1つ以上持っており、かつ、8割以上の得点率を求められる必修問題で、合格ラインに到達しないという特徴があった。

表2 国家試験対策委員会 学生と教員の役割分担

	役割
学生	模擬試験の準備・当日の運営・自宅受験者のサポート 看護師国家試験サポート業者への受験料の支払い対応 追加模試の企画・運営、国家試験当日のとりまとめ 委員会通帳管理 緊急時の対応
教員	国家試験対策スケジュールの立案 対策スケジュールの運営・学生サポート クラス担任との学生状況の情報共有 看護師国家試験サポート業者との情報共有 模擬試験成績不振学生へのサポート

V. 学生アンケートの結果

毎年、その年の国家試験対策の評価として、学生対象のアンケートを実施している。その内容と2019年度に実施したアンケートの結果について述べる。

1. アンケート調査の対象

2019年度国家試験受験予定者

2. アンケート内容

国家試験対策における模擬試験の時期・頻度の適切性、学内での国家試験対策実施の希望、国家試験対策ガイダンス・対策講座の有用性、学内で一括購入している国家試験問題集の有用性、成績不振者対象の必勝対策講座の必要性、有用性、大学で国試対策が行われなかった場合に取りうる個人の対策について、本学部の国家試験対策についての意見（自由記述）

3. アンケート調査の期間

2020年2月

4. 倫理的配慮

対象者に、本調査への協力は、自由意志であり回答しなくても不利益は被らないこと、個人が特定されることはなく、本調査の結果は、報告資料の作成、及び次年度の国家試験対策を検討する際に活用すること、アンケート調査への回答および用紙の提出によって、本調査への協力について同意したこととみなすことを文書と口頭で説明した。

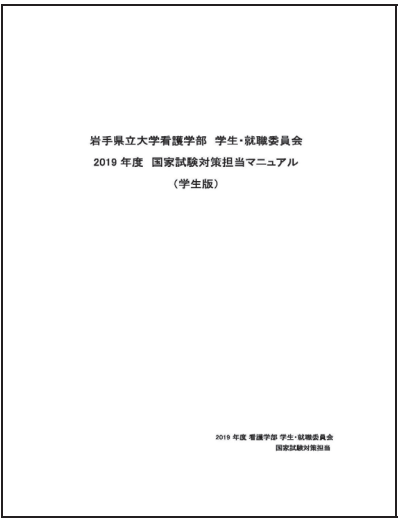


図1 学生マニュアル

5. アンケートの結果（表4）

アンケート回収率は、53.2%（対象学生92名中、回収数49部）であった。

1) 模擬試験の頻度と時期の適切性

模擬試験の頻度（年間4回）については、「ちょうど良い」が31名（63.3%）,「少ない」が18名（36.7%）であった。実施時期については、「早い」が2名（4.0%）,「ちょうど良い」が32名（65.4%）,「遅い」が15名（30.6%）であった。自由記載として、「必修問題を増やしてほしい」、「卒論もあるので3年次に模擬試験を行ってほしい」、「4年生の実習前に一度受けてみたい」という意見があった。

2) 学内での国家試験対策実施の希望

学内で模擬試験や国家試験対策講座を行うことについて、「学内での申し込みが良い」47名（96%）,「個別での申し込みが良い」1名（2%）,「無回答」1名（2%）であった。その理由として、学校での申し込みを希望する場合は、「大人数で行うと本番の練習になる」「個別でのトラブルがなくなる」「楽だから」「個人だと申し込みを忘れそう」「学校で受けることができる」「確実に申し込みができる」「個別で行うと不安」「まとめてやってもらえて助かる」「個別だと管理が大変」「友達と振り返ることができる」という意見があった。一方、個別での申し込みを希望する場合は、「個別の方がもっと模擬試験を受けられた」「使う参考書絞りができる」という意見があった。

3) 国家試験ガイダンスの時期の適切性と有用性

実施日	業務の経緯	担当者	ダブルチェック
1. 国家試験受験予定者、ML作成にかかる業務			
□( )	「 <b>国家試験受験予定者名簿</b> 」を作成する。国家試験対策委員の学生リーダーが提出してきた、第2回国家試験ガイダンスの名簿に、編入生・秋学期の学生を追加する。その上で、教務委員会の卒業研究担当者を作成した。卒業研究担当者一覧と相違ないか確認する。教務Gへの確認は不要。学部内で集約する。※編入生の備考欄には、助産選択or保健師選択を記入する。	学生/教員( )	✓
□( )	4月の第1回委員会に拡大教授会資料として、「 <b>国家試験受験予定者名簿</b> 」「 <b>スケジュール表</b> 」を提示する。なお、「 <b>スケジュール表</b> 」は、学生担当、教員担当を削除後提出する。	教員( )	✓
□( )	国家試験受験予定者が拡大教授会で承認されたら、キャリアセンター担当者「 <b>国家試験受験予定者名簿</b> 」を送付し4年生ML作成を依頼する。なお、メンバーは国家試験受験予定者、学生・就職委員会のメンバー、キャリアセンター担当者、教務G後援会担当者である。	教員( )	✓
□( )	国家試験対策用メールリストを作成する。国家試験対策委員(6グループ×3＝18名)、国家試験対策担当者、委員長、副委員長の計25名がメンバーとなる。	教員( )	✓
2. 第2回国家試験ガイダンスにかかる業務、日時( )場所( )			
✓(4/3)	学生の国家試験対策委員のリーダー1名、副リーダー2名の計3名に、ガイダンス当日の受付及び講師対応を依頼する。名簿は学生に持参してもらう。学生とは開始時間の30分前集合とし、「名簿確認係」「代金徴収係」「資料配布係」の3役で分担するよう指示する。なお、「代金徴収係」は取りまとめた受講料確認後、後援会担当が保管している学生用通帳に連やかに入金する。入金後は、通帳を後援会担当に返却する。	教員( )	✓
✓(4/3)	当日の司会進行、及び講師対応も全て学生が行う(学生マニュアル参照)。	学生	✓
✓(4/3)	ガイダンス終了後、委員長、副委員長にガイダンス終了の報告をする。	学生	✓
✓(4/3)	ガイダンス参加者の名簿を、学生より受け取り共有フォルダにPDF保存する。	教員( )	✓
4年次学部ガイダンス、日時( )場所( )			
✓(4/3)	4月の第1回委員会にて、学部ガイダンスで使用する資料として「 <b>国家試験受験予定者名簿</b> 」を提示する。委員長より承認を得た後、ガイダンス資料(学生分100部・教員分40部＝計140部)印刷する。	教員( )	✓
✓(4/5)	4年次ガイダンスの国家試験対策の持ち時間は例年5分である。ガイダンスで説明する内容を、事前に担当で打ち合わせしておく。参考までに、2019年度は①本学の合格率のこと、②勉強しなければ落ちる試験だということ、③国家試験対策委員の学生に協力すること、④赤本・黒本を実習に持参することの4点を説明した。	教員( )	✓
3. 低学年模試、日時( )場所( )			
✓(4/5)	低学年模試担当学生に、看護学部事務室の倉庫に保管している問題集、解答用紙が人数分揃っているか数数を確認させる。当日に配布しやすい用紙、10部ずつ揃えよう説明する。	教員( )	✓
□( )	名簿は4年生分は学生に、3年生分は教員が持参する。各講義室あたり、「代金徴収係1名」、「問題冊子の配布準備を行う係2名」、「当日のスケジュールを黒板に記載する係1名」の計4名に分担させる。模試の進行、タイムキーパーも学生が行う(学生マニュアル参照)。教員は、学生の業務が滞りなく進むか見守る。	教員( )	✓

図2 教員マニュアル（抜粋）

時期の適切性について3年次ガイダンス（3年次2月）は、「早い」4名（8.0%）,「ちょうど良い」42名（86%）,「遅い」2名（4.0%）であった。各回答の理由について,「早い」と回答した理由は,「時期が早すぎて知識が定着しない」,「意気込みも低い（希望開催時期：4年次7月）」,「忘れてしまう」,「スイッチが入らず頭に入らない（希望開催時期：4年次12月）」,「遅い」と回答した理由は,「時間に余裕があるから（希望開催時期：3年次11月）」であった。4年次ガイダンス（4年次4月）は,「早い」1名（2%）,「ちょうど良い」41名（84.0%）,「遅い」5名（10.0%）であった。有用性については,3年次ガイダンスは「役に立った」23名（47.0%）,「ある程度役に立った」20名（41.0%）,「あまり役に立たなかった」3名（6.0%）,4年次ガイダンス（4年次4月）については,「役に立った」18名（37.0%）,「ある程度役に立った」25名（51.0%）,「あまり役に立たなかった」2名（4.0%）であった。

#### 4) 国家試験対策講座の有用性

夏季と冬季休暇中に,学内で行っている国家試験対策講座の有用性については,「役に立った」35名（71.5%）,「ある程度役に立った」12名（24.5%）であった。

#### 5) 学内で一括購入している国家試験問題集の有用性

学内で一括購入している国家試験問題集の有用性については,「役に立った」16名（32.7%）,「ある程度役に立った」22名（44.9%）,「あまり役に立たなかった」9名（18.4%）,「役に立たなかった」2名（4.0%）であった。自由記載内容として,追加で（別の問題集を）購入した「別冊になっているので見にくい」という意見があった。

#### 6) 成績不振者対象の必勝対策講座の必要性

成績不振者対象の必勝対策講座の必要性について全対象者に聞いた結果,「必要だ」30名（61.3%）,「やや必要だ」12名（24.5%）,

「あまり必要でない」3名（6.1%）であった。必勝対策講座を実際に受講した学生を対象に有用性を聞いた結果は,「役に立った」14名（73.7%）,「ある程度役に立った」5名（26.3%）という結果であった。

#### 7) 大学で国試対策が行われなかった場合に取 りうる個人の対策について（表5）

大学で国家試験対策が行われなかった場合に,学生が主体的に取りうる国家試験対策について,「何かしらはしたと思う」,「色々な模擬試験や過去問を解く」,「3年春休みに解剖生理について勉強。4月夏休みに必修を集中的に勉強」,「個人で参考書等を利用して勉強した」,「看護師国試予備校のようなところやセミナーに申し込んだと思う」,「アプリを活用していた」,「大学にきて勉強した」,「学校で友達と勉強していた」,「危機感が薄れて対策が遅れてしまいそう」等という意見が見られた。

#### 8) 本学部の国家試験対策についての意見（表6）

本学部の国家試験対策について「卒業研究が終わる時期をもう少し早めてもらいたい」,「学校単位でしか模擬試験が受けられない所が多いので,もう少し模擬試験を受けたかった」,「対策講座の料金が高く,保健師と看護師両方の講座を受けるのが難しかった」,「他大学ではこんなに手厚く対策をしてもらっていないという事を知って有難いと思った」等という意見・感想が見られた。

## VI. 考察

### 1. 本学部の看護師国家試験対策の成果

学生によるアンケートの結果から,学生は,「学内で模擬試験や国試対策講座を行うこと」「国家試験ガイダンスの時期や内容の適切性」「国家試験対策講座の有用性」については,概ね満足していることが明らかとなった。また,「模擬試験成績不振者に対する必勝対策講座の必要性」についても,8割以上の学生が必要性

表3 過去5年間の本学部看護師国家試験合格状況

年度	2015	2016	2017	2018	2019
合格率 (%)	100	98.9	100	98.9	96.7
合格者数(人) / 受験者数 (人)	88 / 88	90 / 91	89 / 89	90 / 91	89 / 92



表4 アンケート結果

		N = 49	
		回答数	%
模試の頻度	多い	0	0
	ちょうど良い	31	63.3
	少ない	18	36.7
	その他	0	0
模試の時期	早い	2	4.0
	ちょうど良い	32	65.4
	遅い	15	30.6
	その他	0	0
学内で模試試験や国試対策講座を行うこと	学校での申込みがよい	47	96.0
	個別での申込みが良い	1	2.0
	その他	0	0
	無回答	1	2.0
国家試験ガイダンスの 時期の適切性 (3年次2月実施)	早い	4	8.0
	ちょうど良い	42	86.0
	遅い	2	4.0
	その他	1	2.0
国家試験ガイダンスの 時期の適切性 (4年次4月実施)	早い	1	2.0
	ちょうど良い	41	84.0
	遅い	5	10.0
	無回答	2	4.0
国家試験ガイダンスの 有用性 (3年次2月実施)	役に立った	23	47.0
	ある程度役に立った	20	41.0
	あまり役に立たなかった	3	6.0
	役に立たなかった	0	0
	無回答・未受講	3	6.0
国家試験ガイダンスの 有用性 (4年次4月実施)	役に立った	23	47.0
	ある程度役に立った	20	41.0
	あまり役に立たなかった	3	6.0
	役に立たなかった	0	0
	無回答・未受講	3	6.0
国家試験対策講座の 有用性	役に立った	35	71.5
	ある程度役に立った	12	24.5
	あまり役に立たなかった	0	0
	役に立たなかった	0	0
	無回答・未受講	2	4.0
学内で一括購入している 国家試験問題集の 有用性	役に立った	16	32.7
	ある程度役に立った	22	44.9
	あまり役に立たなかった	9	18.4
	役に立たなかった	2	4.0
	無回答	0	0
必勝対策講座の必要性	必要だ	30	61.3
	やや必要だ	12	24.5
	あまり必要でない	3	6.1
	必要でない	1	2.0
	無回答	3	6.1
必勝対策講座の有用性 ※必勝対策該当者29名中19名が 回答	役に立った	14	73.7
	ある程度役に立った	5	26.3
	あまり役に立たなかった	0	0
	役に立たなかった	0	0
	無回答	0	0

を感じていることから、本学部の国家試験対策の内容は、概ね学生のニーズに対応できていることが示唆された。

一方、国家試験対策内容の中で、学生のニーズとギャップが見られる回答として、「模擬試験の時期」「模擬試験の回数」について、「ちょうど良い」と回答する学生が約6割いたのに対して、「遅い」「少ない」と回答する学生も約3割存在した。さらに、大学の国家試験対策に対する意見、感想においても、「学校単位でしか模擬試験が受けられない所が多いので、もう少し模擬試験を受けたかった」、「模擬試験の回数がもう少し欲しかった」という意見、感想が見られ、模擬試験の回数や時期については、検討の余地があることが示唆された。模擬試験の時期と回数について、学部で計画できる日程は、対象となる4年生全員が概ね受験が可能な日程、かつ、学部の年間スケジュールで対応可能な日程で設定している。そのため、年度初めの国家試験ガイダンスでは、模擬試験は学内で受験できるもの以外でも、個別に申し込んで受験することを妨げないこと、学外の模擬試験の日程や内容についてのリサーチは学生に委ねることを説明している。それでもなお、このような意見が見られたことについては、「学校単位でしか模擬試験が受けられない所が多い」という学生の意見にも反映される通り、学生が個人で申し込みが可能な看護師国家試験模擬試験の数、種類が少ないことが一因にあると考えられた。しかしながら、個別に申し込みができる模擬試験が全く無いわけではなく、一定数存在することから、そのような模擬試験の紹介をしたり、学生からの意見・感想にもあるように過去問等を使った模擬試験等を学内で開催するなどの対策の可能性が示唆された。

## 2. 本学部の看護師国家試験対策の課題

アンケート結果を通して、現時点での本学部の国家試験対策は概ね学生のニーズに対応した内容であることが明らかとなった。国家試験対策は、学生のニーズに対応することはもちろん、それと同時に、学生の主体性を尊重し、合格率の向上、合格率100%を目指すことも目的としている。よって、学生の主体性と合格率の向上につながる取り組みとなっているかの検証が必要であると考えられる。これまでの看護師国家試験の本学部の合格率を見ると、100%に達しない

年も多く、90余名の背景の異なる学生を対象に、毎年合格率100%を達成することは容易ではない。そこで、これまでの取り組みの過程と、国家試験不合格者の傾向から、合格率の向上につながるための取り組みについて検討を行った。

まず、合格率の向上につながる取り組みについては、看護師国家試験の合格率は、ほぼ95%以上であり、不合格となる学生は例年1名から数名である。よって、すべての学生に強化サポートが必要なわけではなく、これまで行ってきたすべての学生に平等に与えられるサポートに加えて、より不合格に対してハイリスクな学生に対して、サポートを強化するという、2段がまの体制が必要であると考えた。これまでの国家試験不合格者には、4つの不合格のハイリスク要因が存在すること、必修問題で、合格ラインに到達していないという特徴があることは先に述べた。よって、そのハイリスク要因にアプローチする必要があること、必修問題対策を強化することが合格率向上に向けた取り組みにつながる可能性が示唆された。すでに、国家試験模擬試験成績が不振である学生については、保護者への通知や国家試験直前の必勝対策などを通して介入を行っている。その他3つのハイ

リスク要因（単位を順調に取得できていないこと、成績（GPA）が不良であること、順調に進級できていないこと）については、大学入学当初からのアプローチが必要であること、ハイリスク要因を持っている学生を早期にキャッチアップし、担任教員と協働し、個別にサポートを強化して関わっていく必要性が示唆された。具体的には、該当する学生個々の個別性を把握し、個別性に沿った効果的な介入ができるための国家試験対策担当教員と担任教員との連携、学部全体での低学年からの日ごろの授業や実習での国家試験対策につながる働きかけ（学年ガイダンスでGPAの国家試験不合格のハイリスクラインを周知する、クラス面談時にGPAを確認し、自身が国試不合格のハイリスクグループに属していないか意識づけさせる、順調な単位取得と進級へのサポート、国家試験合格につながる授業研究、必修問題対策等）、などである。

最後に、学生の主体性の向上につながる取り組みについて、学生のアンケートの回答内容から、検討を行った。大学での国家試験対策が行われなかった場合の個人的な対策について、「色々な模擬試験や過去問を解く」など、自ら対策をするという回答がある一方で、「危機感

表5 大学で国試対策が一切行われなかった場合に、個人的にどのような対策を実施したか

- ・何かしらはしたと思う
- ・色々な模試や過去問を解く（同様の意見：7名）
- ・3年春休みに解剖生理について勉強。4月夏休みに必修を集中的に勉強
- ・個人で参考書等を利用して勉強した（同様の意見：3名）
- ・看護師国試予備校のようなところやセミナーに申し込んだと思う（同様の意見：3名）
- ・アプリを活用していた
- ・大学にきて勉強した
- ・学校で友達と勉強していた
- ・危機感が薄れて対策が遅れてしまいそう

表6 大学における国家試験対策についての意見、感想

- ・卒業研究が終わる時期をもう少し早めてもらいたい、10～11月くらいから国試だけ勉強する形が良い。
- ・学校単位でしか模試が受けられない所が多いので、もう少し模試を受けたかった。
- ・模試の回数がもう少し欲しかった。過去問でもいいので可能であれば月1回の実施を4年後期もしくは10,11月くらいから。
- ・B社模試をもっと増やしてほしい（自由参加で良いので）。A社模試より解説が分かりやすく、Webで見直して復習がスムーズだった。
- ・A社模試以外にも模試を増やせる機会があったら良かった。Web模試、B社模試の振り返りは空いた時間に活用できて良かった。
- ・対策講座の料金が高く、保健師と看護師両方の講座を受けるのが難しかった。
- ・他大学ではこんなに手厚く対策をしてもらってないという事を知って有難いと思った。



が薄れて対策が遅れてしまいそう」という回答もあった。このことから、すべての学生に平等に国試対策の機会が与えられることは学生の支援になる一方で、学生の国家試験対策に対する主体性や危機感を削ぐことにつながる可能性についても示唆された。島田（2014）は、国家試験対策における教員の役割について、国家試験は、学生自身が自分の問題であることを強く認識して取り組み始めなければ、そもそもの対策の大きな基盤が崩れる、学生自身が主体者であるということを学生にどのように意識づけるかが大きな役割である、と述べている。本学の国家試験対策では、国家試験対策を学生自身の問題であると学生に意識づけるために、学生主体の活動を教員がサポートする体制を取ってきた。しかしながらすべての学生の国家試験対策に対する主体性を伸ばすための支援は、未だ十分とは言いきれないと考える。また、どこまでサポートをすることが必要であり、それが主体性を育むのかといった葛藤も生まれる。同じく、島田（2014）は、学生自身が国家試験の準備を自分のこととしてどう取り組むかを支援するために、学生が、日々の学習の積み重ねイコール対策そのものであるという意識を持たなければならないこと、そのために、教員が学生に対して、自己課題を設定する能力を刺激すること、自己の目標を管理する学習者になることを支援し、教員自身の教育力を含め、学生を支援する能力の自己評価が求められること、さらに学校としての自己点検と自己評価、教員全体の国家試験に対するスタンスが一致していることが求められる、と述べている。本学部でも、大学に入学した時から、国家試験対策は始まっているという認識のもと、学部全体で国家試験対策に対するスタンスを共有し、学生が日頃から主体的に看護の専門職に就くための学習を進めていけるよう、日々、学生に関わっていく必要性を再認識することができた。

看護師国家試験は、社会や看護を取り巻く環境の変化などから、その内容（出題基準）の見直しが定期的になされており、自校の教育内容が、現行の出題基準に即したものになっているかを確認することも重要である（池西，2014）。そして、他大学での国家試験対策に関する実践報告は限られているが、国家試験合格に向けた学習支援方法についての報告（三木，2019）も散見されることから、他大学の取り組みの好事

例も適宜参考にしながら、引き続き、学生の主体性を尊重し、学生自身の自己実現と社会のニーズに答えるためにも合格率向上につながる国家試験対策の運営方法や支援のあり方について検討を続けていきたい。

## 引用文献

- 保健師助産師看護師法（昭和二十三年法律第二百三号）（1968）：[https://elaws.e-gov.go.jp/document?la\\_wid=323AC0000000203](https://elaws.e-gov.go.jp/document?la_wid=323AC0000000203). [検索日2021年10月10日]
- 池西静江（2014）：国家試験で問われる能力をどう育成するか，看護教育，66（6），472-483.
- 厚生労働省（2021）：[https://www.mhlw.go.jp/general/sikaku/successlist/2021/siken03\\_04\\_05/about.html](https://www.mhlw.go.jp/general/sikaku/successlist/2021/siken03_04_05/about.html). [検索日2021年10月12日]
- 厚生労働省保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会（2016）：<https://www.mhlw.go.jp/content/10803000/000491334.pdf>. [検索日2021年10月12日]
- 松崎加代子，塗々木和男，前山直美（2015）：看護師国家試験に向けた学生支援の検討 看護師国家試験問題を用いた年度始めおよび直前での理解度の統計解析，神奈川歯科大学短期大学部紀要，2，55-62.
- 三木研作（2019）：看護師国家試験合格を意識した能動的学習支援，日本赤十字豊田看護大学紀要 14（1），17-26.
- 三井明美（2013）：本学国家試験支援室から見た今後の国家試験対策で重要なこと，看護教育，54（9），798-803.
- 島田千恵子（2014）：国試対策は学生が入学したときから始まっている，看護教育，55（6），468-471.
- 武政奈保子，野田義和，吉田千鶴，他（2016）：協同学習を取り入れた看護師国家試験学習支援の可能性-模擬試験の得点変化とグループ学習動機付けの検討-，帝京科学大学紀要，12，83-90.
- 武政奈保子，森實詩乃，志田久美子，他（2015）：看護師基礎教育の国家試験対策におけるeラーニング学習の効果の中間報告-学習理論によるインストラクション構築の段階とeラーニングの動機付けの比較-，帝京科学大学紀要，11，83-93.